

熊本県内経済情勢報告

令和6年11月

財務省九州財務局



九州財務局に関する情報はこちら！！



ホームページ



X(旧Twitter)



Facebook

(問い合わせ先)

財務省九州財務局経済調査課

TEL 096-353-6351 (代表)

ホームページアドレス

<https://lfb.mof.go.jp/kyusyu/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している」

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
総括判断	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している	→

（注）6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、海外経済の影響などがみられるものの、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	→

設備投資	6年度は減少見込み	6年度は減少見込み	→
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	→
住宅建設	足踏みの状況にある	持ち直している	↗

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している」

百貨店・スーパー販売は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している。コンビニエンスストア販売は、堅調である。ドラッグストア販売は、好調である。ホームセンター販売は、防災関連商品を中心に増加している。家電大型専門店販売は、持ち直しつつある。乗用車の新車販売は、持ち直しつつある。宿泊は、堅調である。

(主なヒアリング結果)

- 引き続き中間層の購買が弱く、物価高の影響を感じている。一方、時計・宝飾などの高額品は好調である。(百貨店・スーパー)
- 米の代替品としてパックご飯、シリアル食品なども売れているが、9月下旬ごろから新米が出回りだして米不足は少し落ち着いてきた。また、野菜は、じゃがいも、ニンジン、玉ねぎなどが好調なほか、トマトも価格が高いなりに売れている。(百貨店・スーパー)
- 今年は前年より暑かったため、冷し麺、サラダ、アイスクリームなどが好調だったほか、台風接近前は食料品や乾電池などの防災関連商品などが売れた。(コンビニエンスストア)
- 仕入価格の上昇分を価格転嫁させているなか、売上げ点数は前年並みであり、価格上昇分が売上げ増加につながっている。(ドラッグストア)
- 日向灘の地震、台風10号の影響により、防災バッグ、乾電池、食料品など幅広い品目で売上げが伸びた。また、競合する他業態対策として一部商品の価格を下げている効果もあり、9月も前年と同程度の売上げを維持できた。(ホームセンター)
- 猛暑の影響でエアコンが好調であり全体を牽引した。物価高により過年度モデルの売行きが良い商品もある。(家電大型専門店)
- 生産再開を受け少しずつ平時に戻りつつあり、登録台数は今後もある程度確保できる見込みである。(自動車販売店)
- 国内宿泊者数は非常に好調だった前年と比較すると減少しているが、台湾からの宿泊者数は昨年右肩上がり増加し、足下でも高止まりしているなど、インバウンド宿泊客数は増加している。(公的機関)
- 9月の宿泊者数は前年並みであったが、11月下旬までの予約が満室となっているため、秋の行楽シーズンは好調になると思われる。(宿泊業界団体)
- 猛暑では外食が増える傾向があるため、8月は非常に好調だったが、9月になると落ち着いた。(飲食業界団体)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

汎用・生産用機械は、半導体製造装置を中心に増加している。食料品等は、外食向け需要が堅調なこともあり、持ち直しつつある。電子部品・デバイスは、海外経済の影響などがみられるものの、高付加価値製品を中心に高水準を維持している。化学は、横ばいの状況にある。

- 中国向けの半導体製造装置の需要が続いているほか、台湾や韓国向けの需要も増えてきており、生産台数は前年を上回っている。(汎用・生産用機械)
- 外食産業向けは引き続き上昇基調となっており、新商品の売行きも好調である。(食料品等)
- スマートフォン市場は緩やかな回復基調にあるほか、高付加価値化により生産額、生産数量ともに増加している。(電子部品・デバイス)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は、このところ横ばいの状況にある。新規求人数は、前年を下回っている。企業の手不足感は、高い状況が続いている。

- 半導体関連業界の求人が堅調に推移している。また、物価高による高齢者の求職増の動向は継続している。(公的機関)
- 宿泊業で外国人、卸・小売業でスポットワークを活用する企業が増えている。(職業紹介・労働者派遣)
- パートなどの応募がなく、ハローワークのほか、インターネット求人、スポットワーク、派遣をフル活用して何とか人員を確保している。(小売)

- 設備投資 「6年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期
 - 製造業、非製造業ともに減少見込みとなっている。
- 企業収益 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期
 - 製造業、非製造業ともに増益見込みとなっている。
- 住宅建設 「持ち直している」
 - 新設住宅着工戸数(6年6月~8月)をみると、持家、貸家、分譲住宅いずれも前年を上回っている。

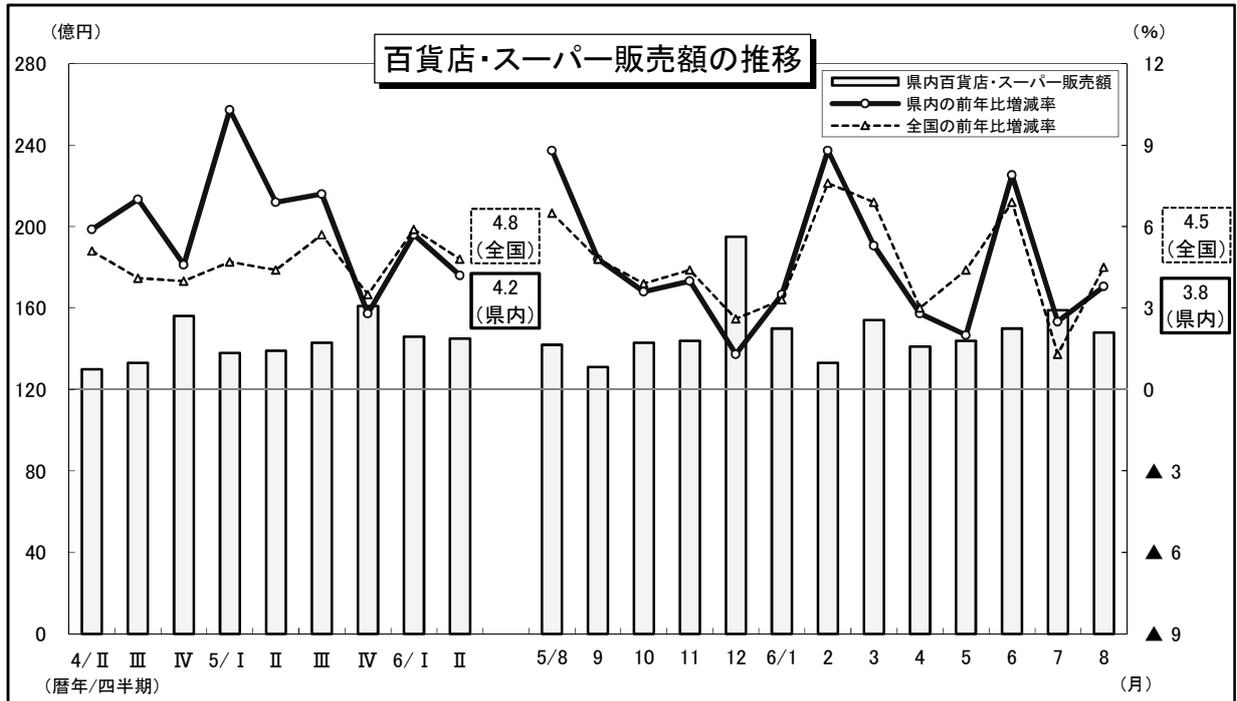
【その他の項目】

- 企業の景況感 「現状判断は『上昇』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7-9月期
 - 6年7~9月期の景況判断BSIをみると、全産業では「上昇」超となっている。
先行き(全産業)をみると、6年10~12月期は「上昇」超の見通しとなっている。
- 公共事業
 - 公共工事請負金額(6年4~9月累計)をみると、前年度を下回っている。
- 倒産
 - 企業倒産(6年7~9月期)は、件数、負債総額ともに前年を上回っている。

【参 考 資 料】

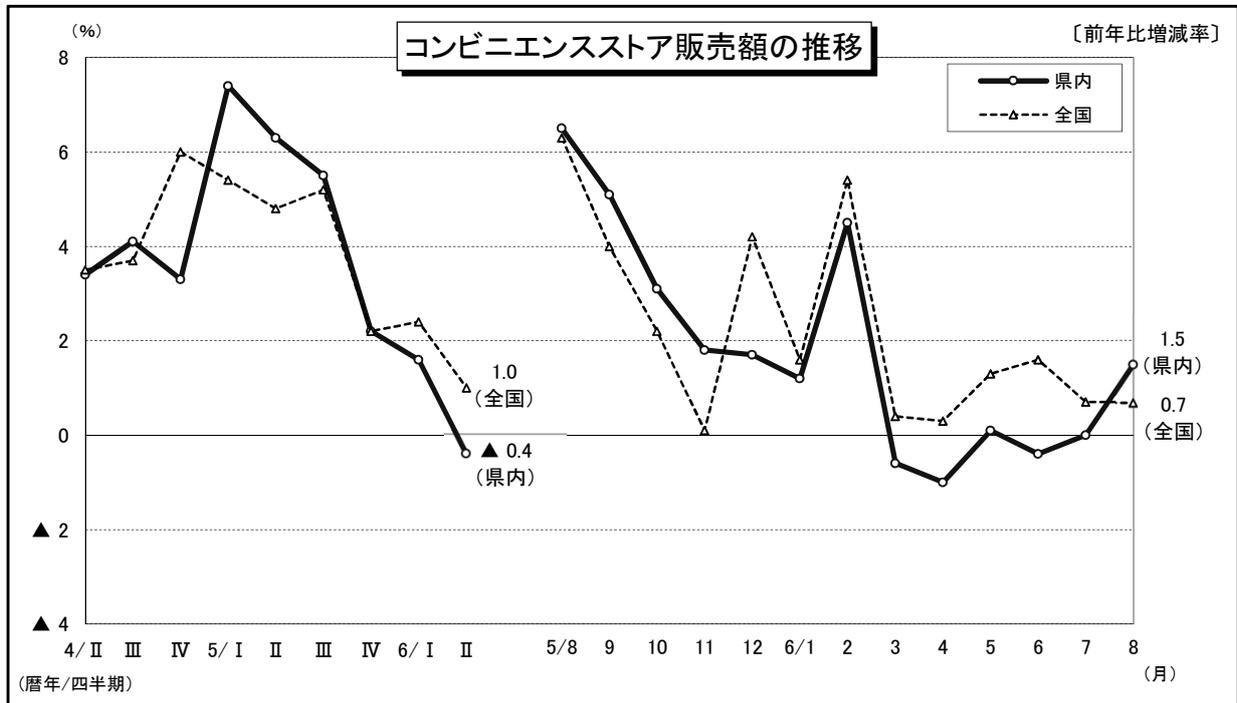
1. 個人消費	参-1
2. 生産活動	参-4
3. 雇用情勢	参-5
4. 設備投資	参-6
5. 企業収益	参-6
6. 住宅建設	参-7
7. 企業の景況感	参-8
8. 公共事業	参-9
9. 倒産	参-10

1. 個人消費



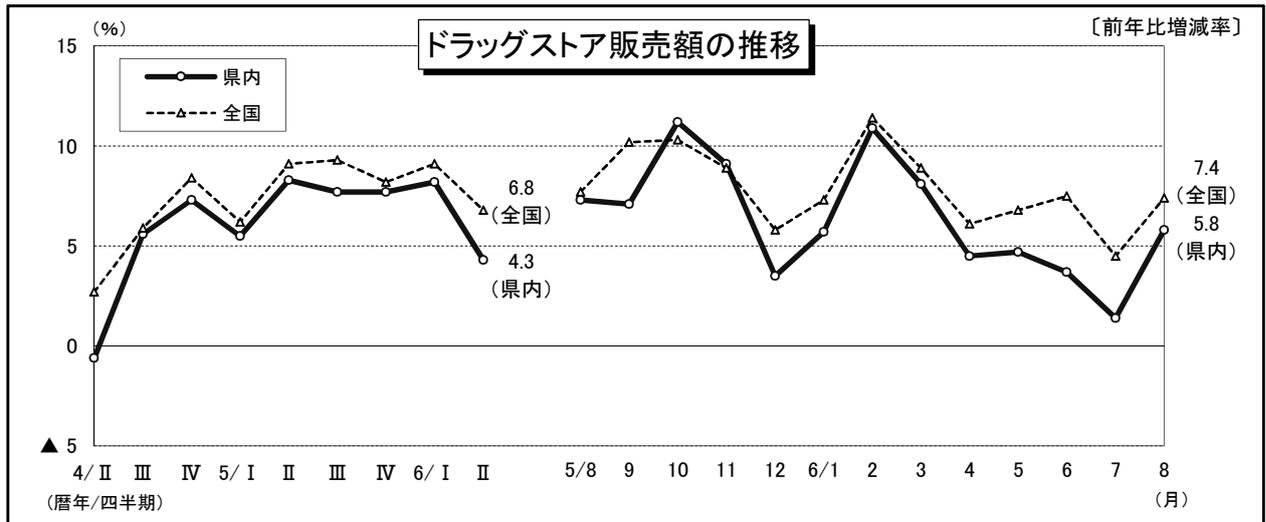
(注)全店ベース。四半期の棒グラフは月平均。

[資料:経済産業省]



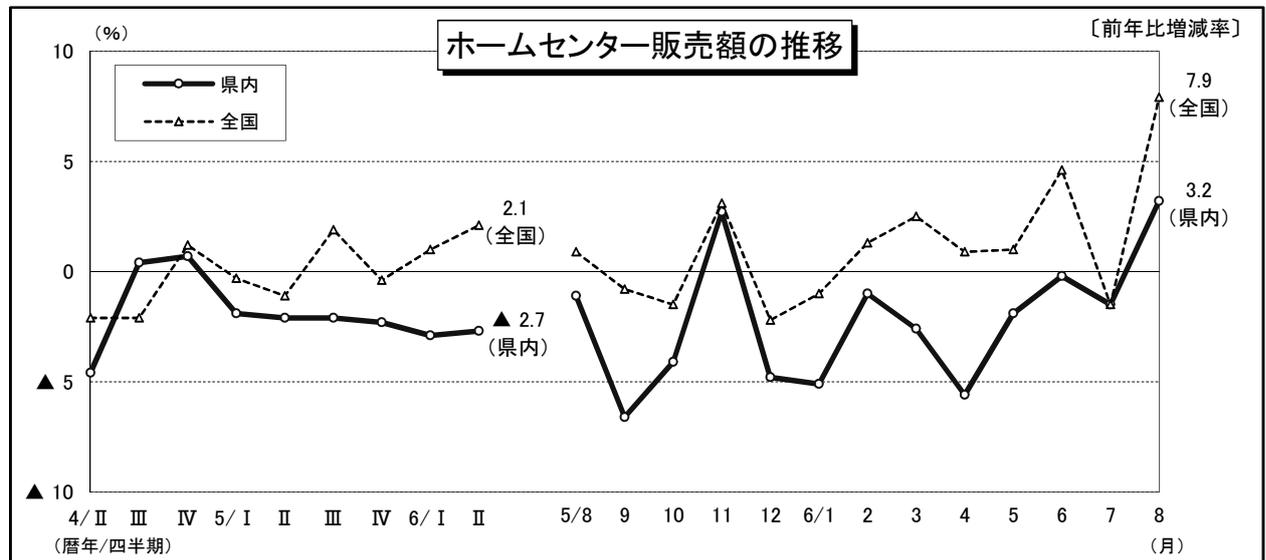
(注)全店ベース。

[資料:経済産業省]



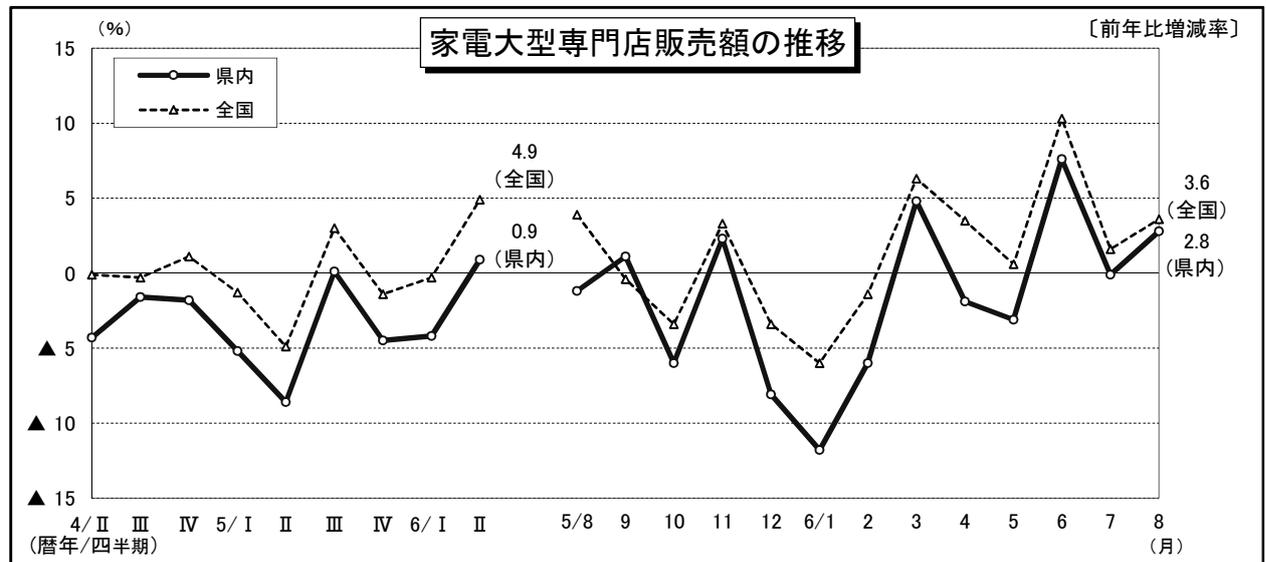
(注)全店ベース。

[資料:経済産業省]



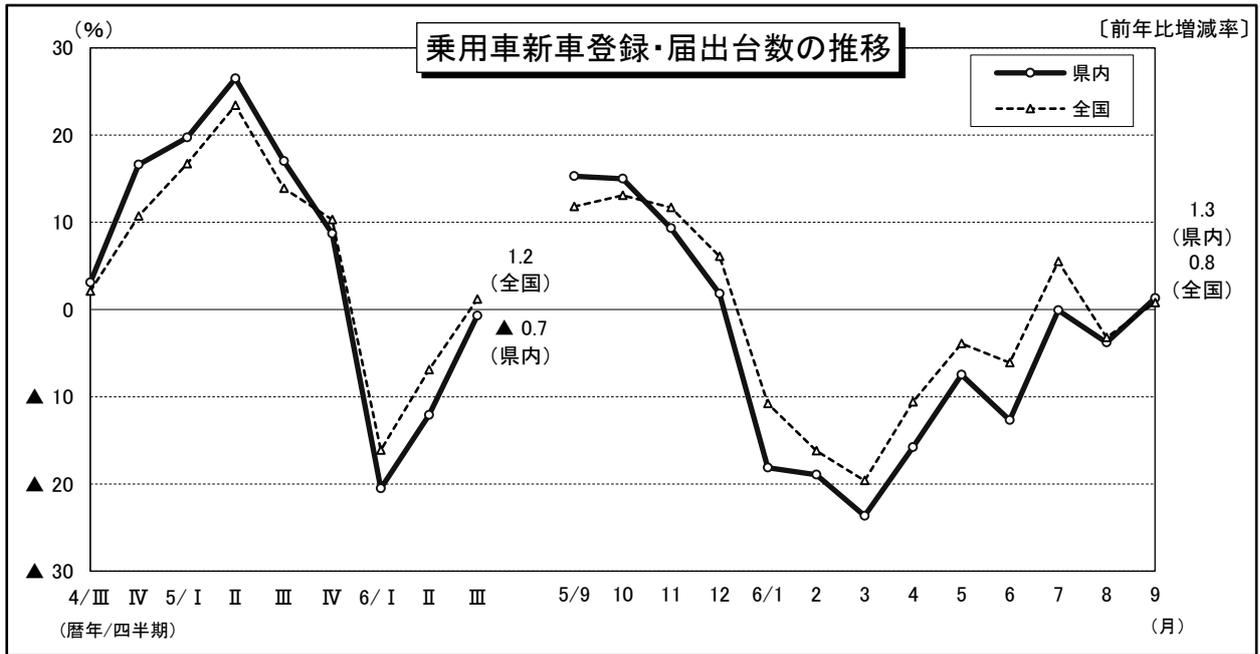
(注)全店ベース。

[資料:経済産業省]

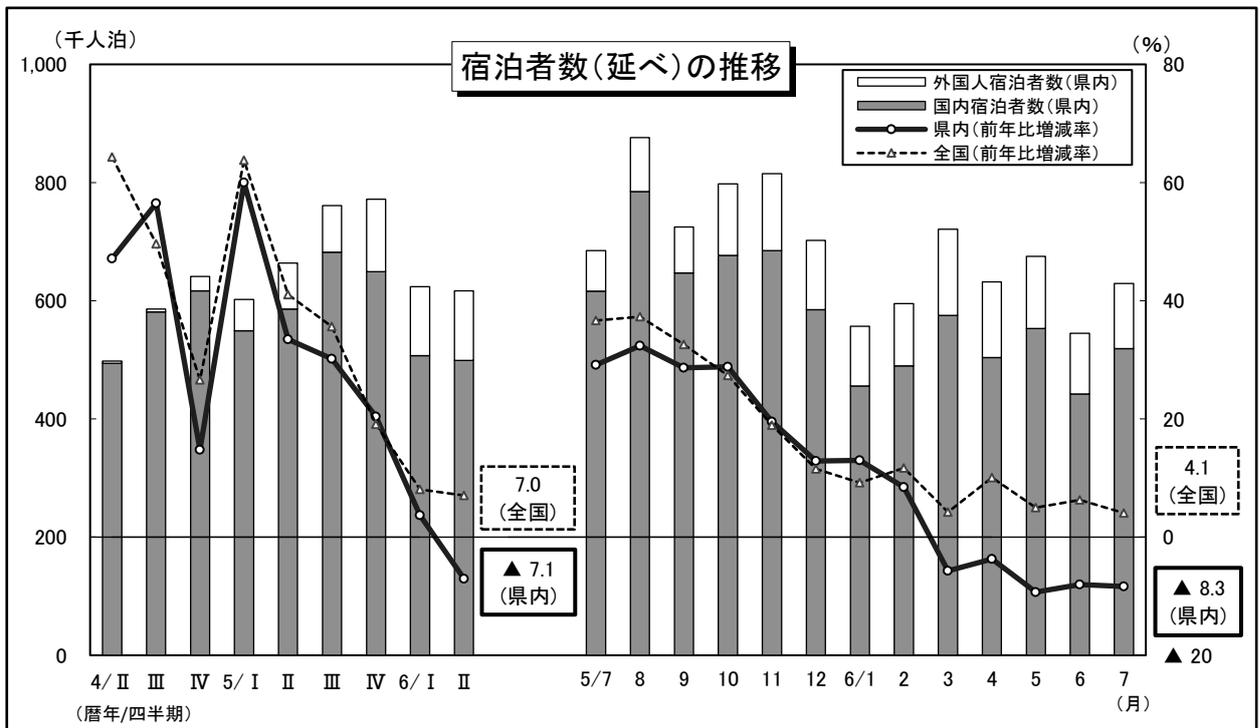


(注)全店ベース。

[資料:経済産業省]



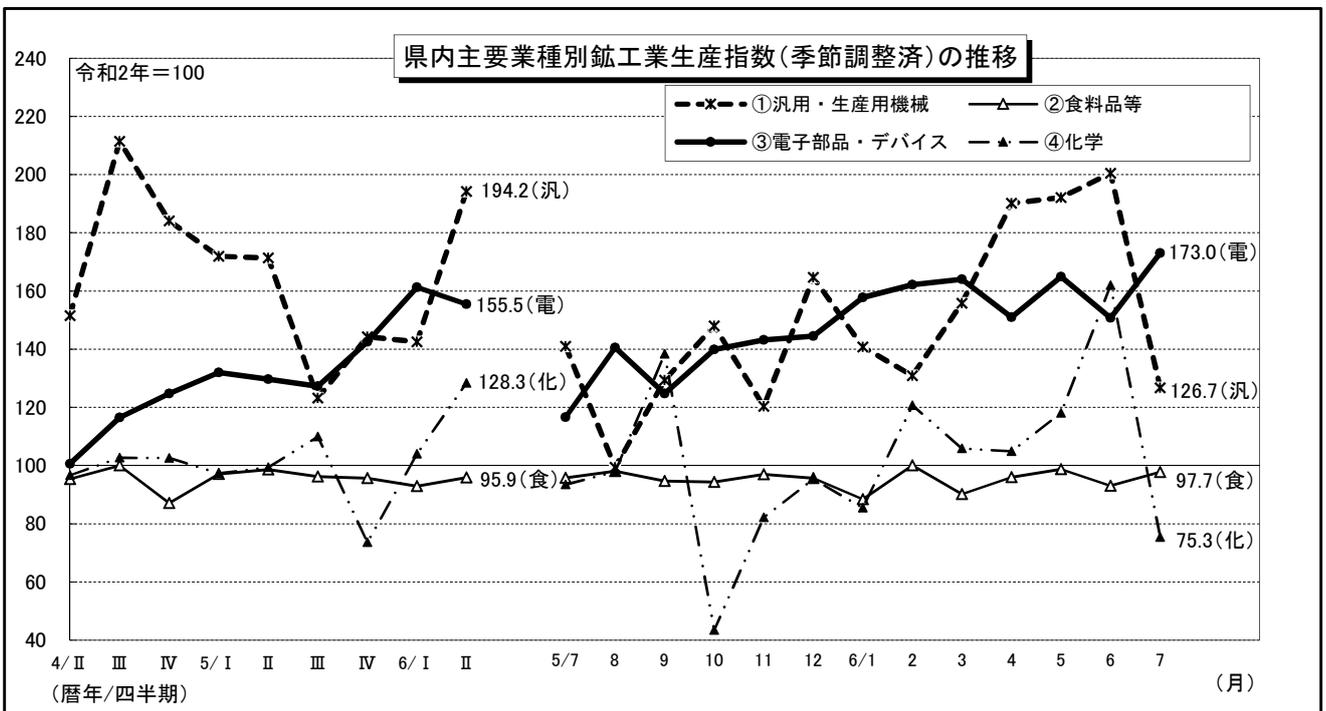
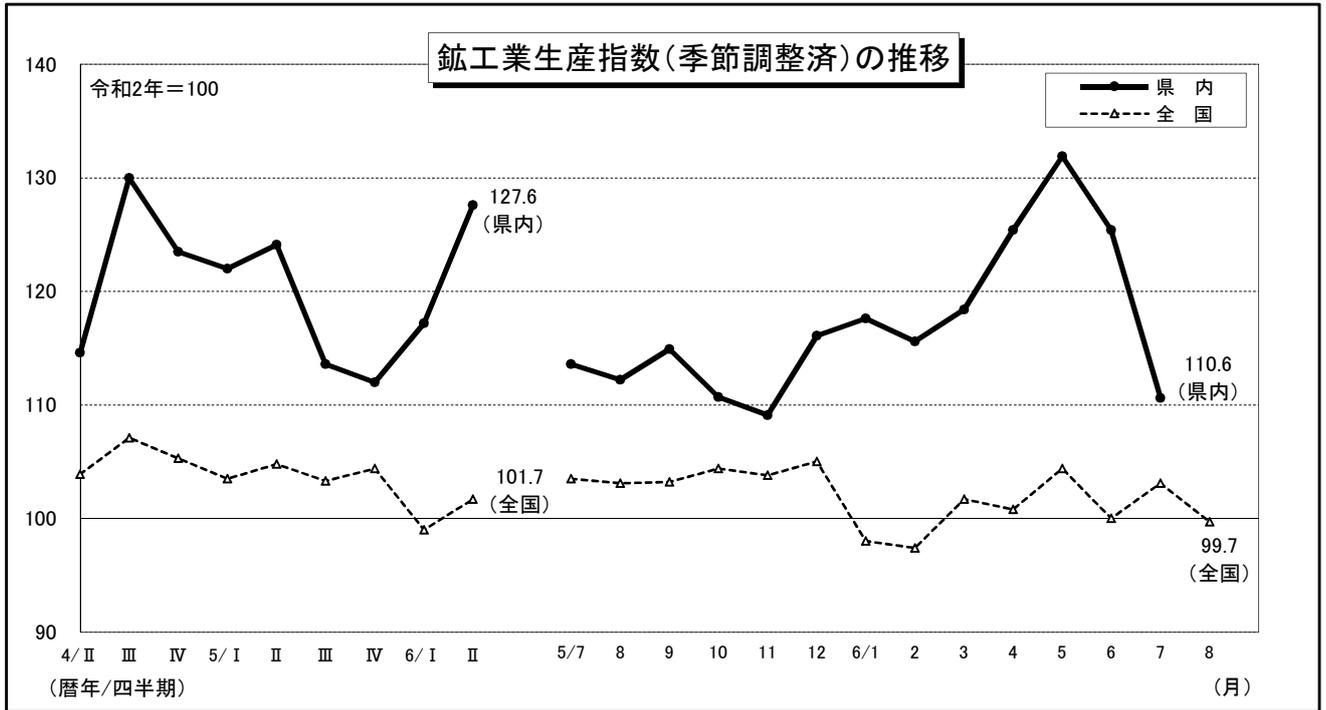
〔資料：日本自動車販売協会連合会、熊本運輸支局及び全国軽自動車協会連合会〕



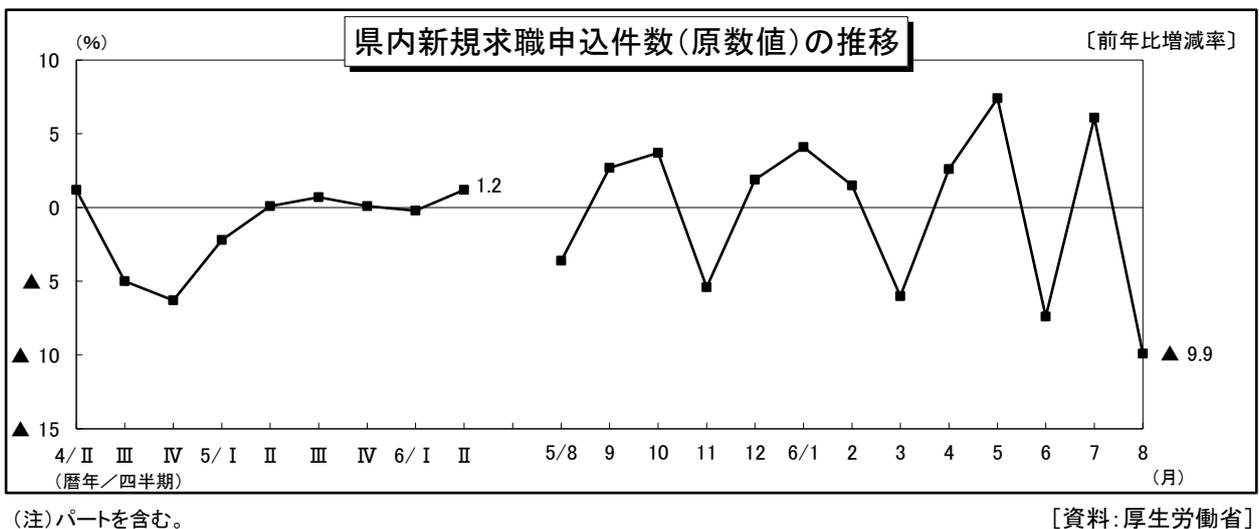
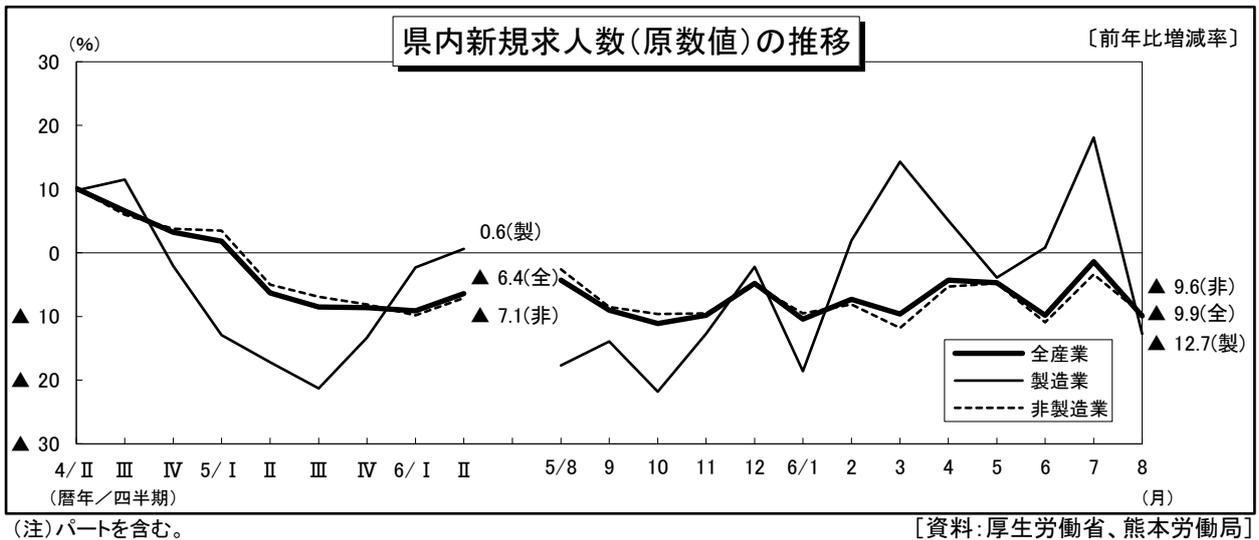
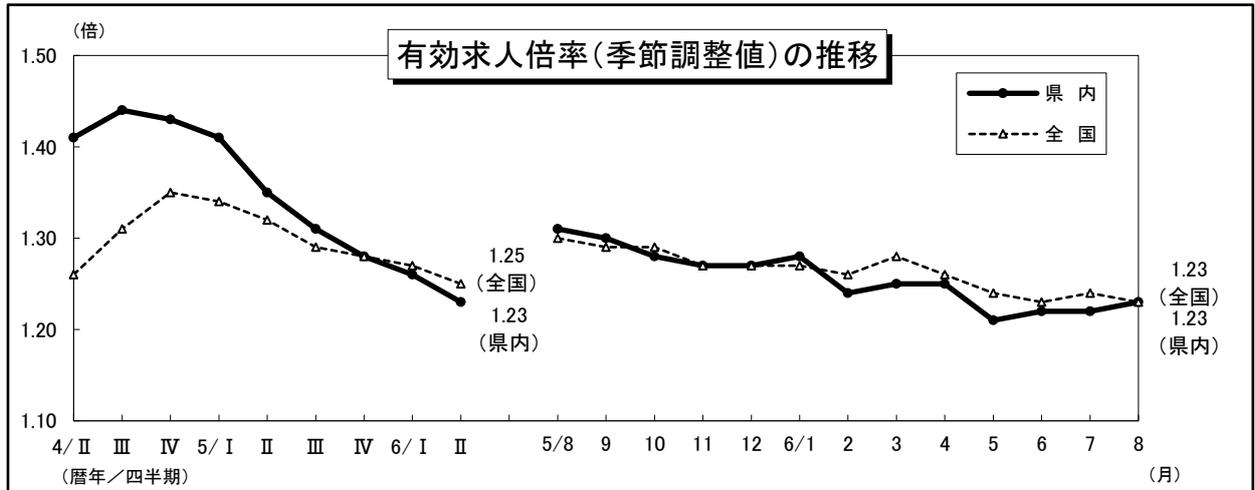
(注) 四半期の棒グラフは月平均。

〔資料：観光庁〕

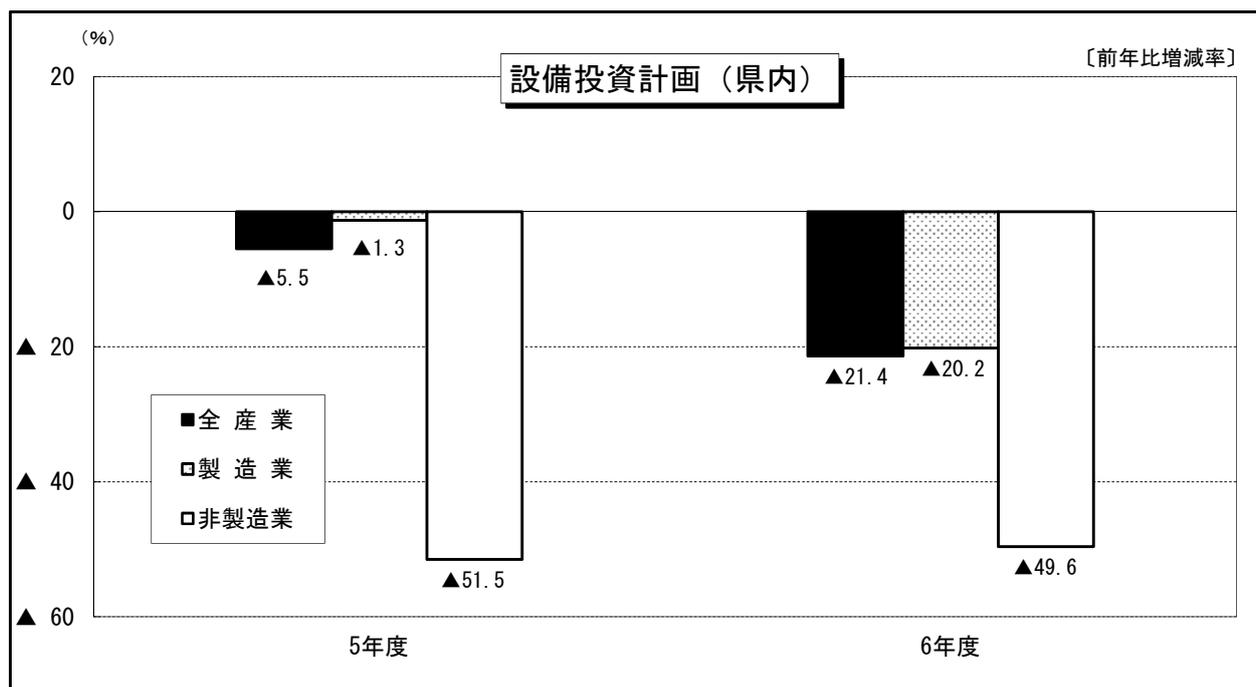
2. 生産活動



3. 雇用情勢

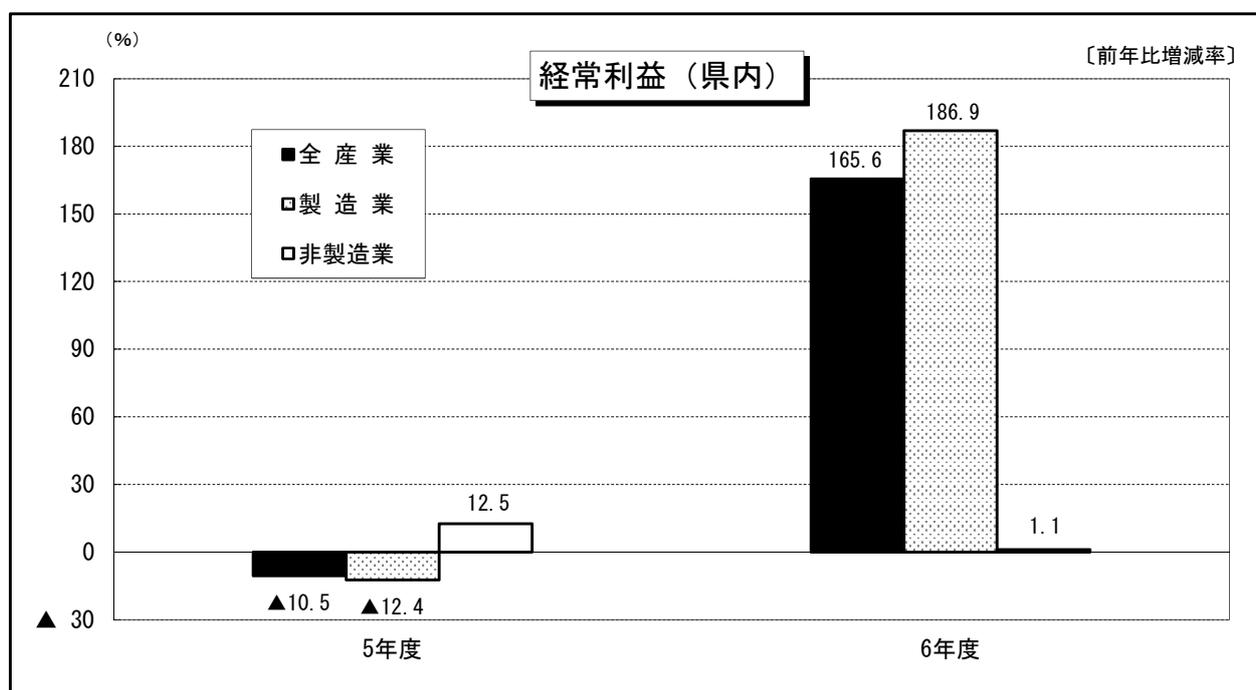


4. 設備投資



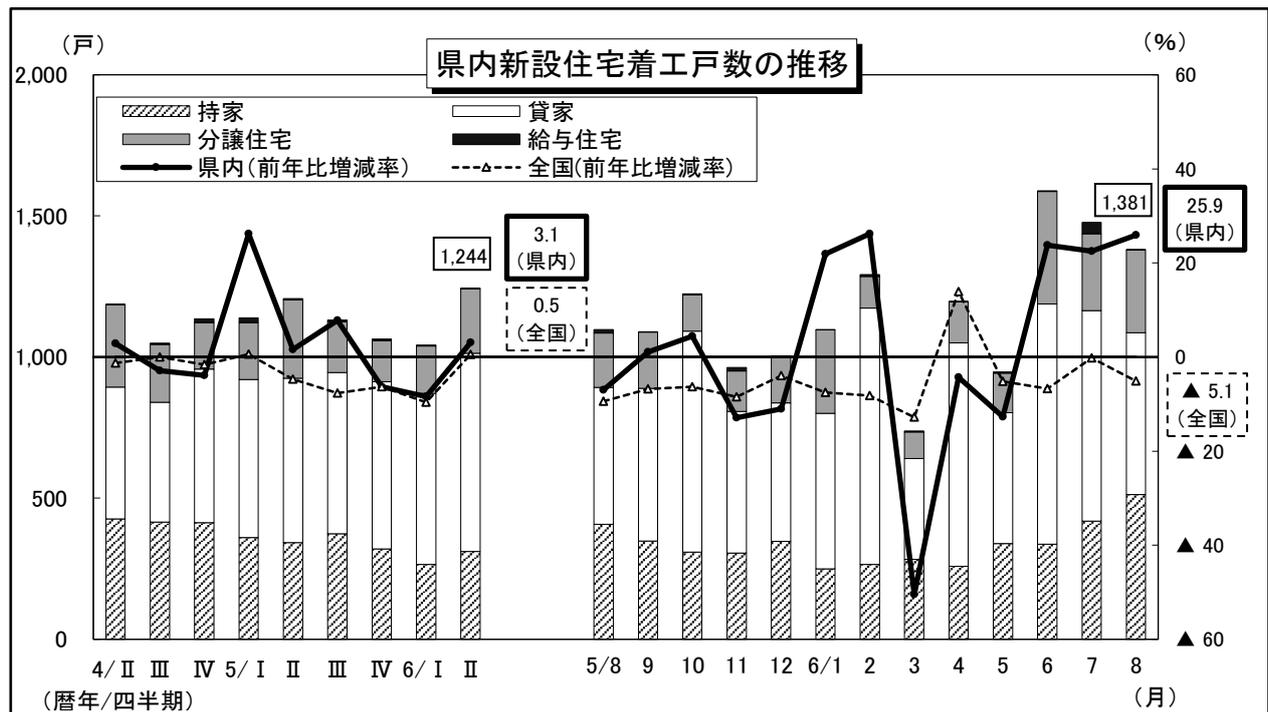
[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

5. 企業収益



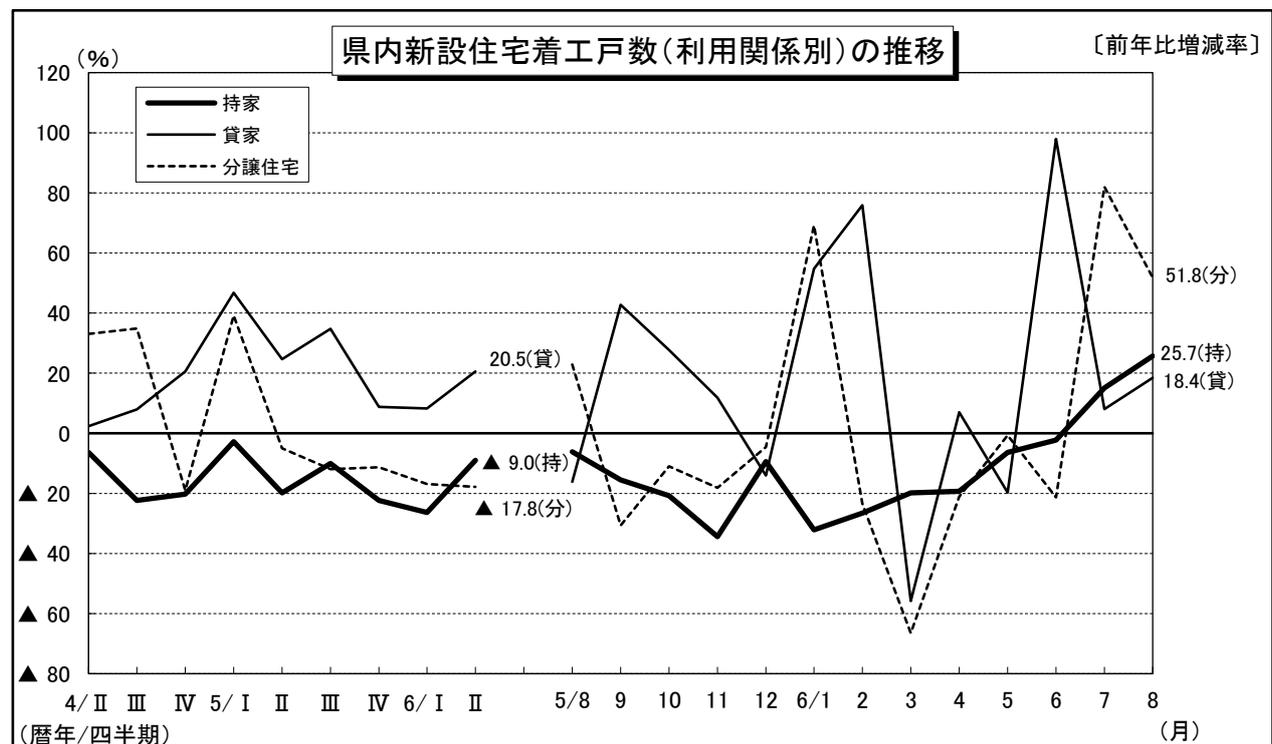
[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

6. 住宅建設



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

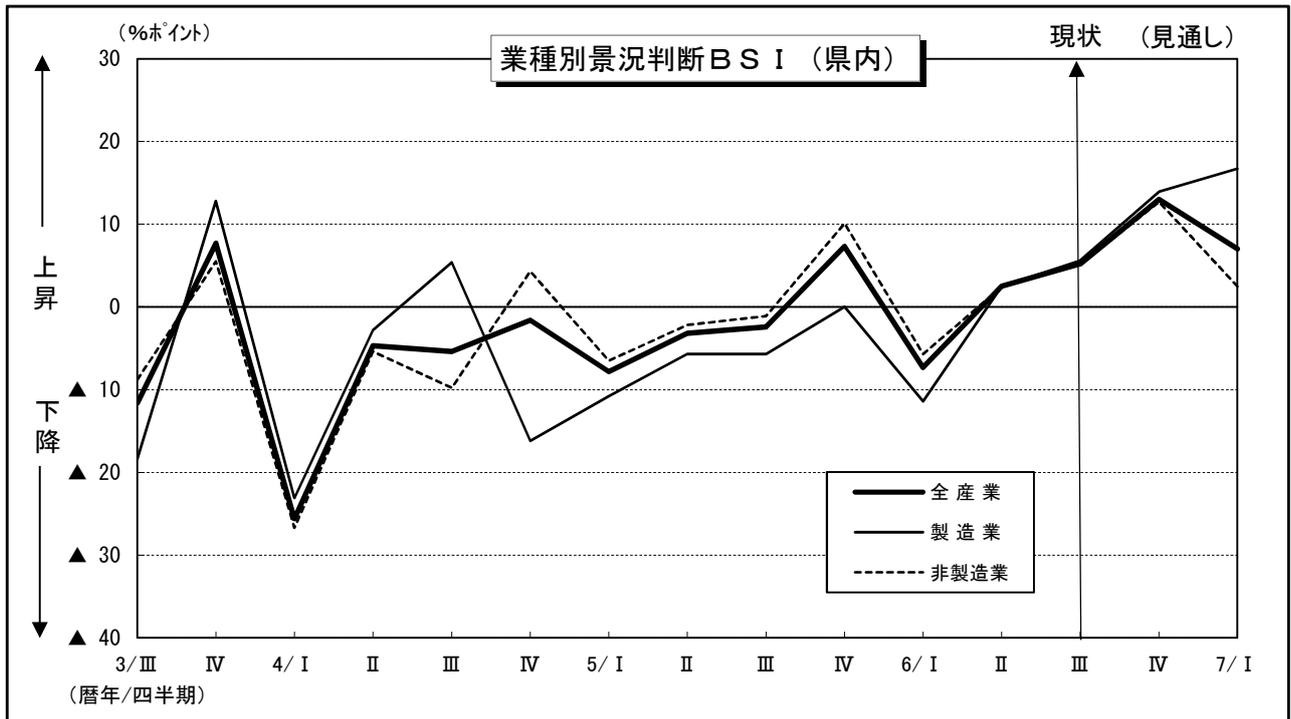
[資料:国土交通省]



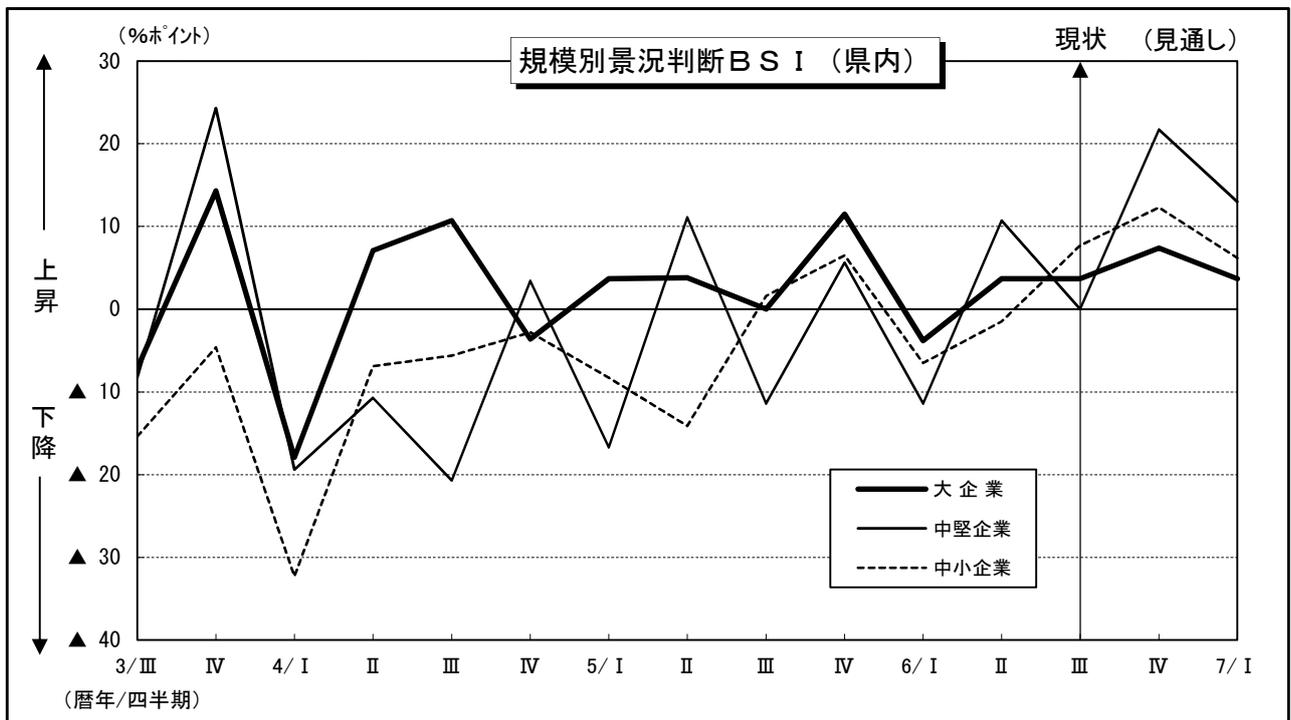
(注) 給与住宅については、些少であるため表記していない。

[資料:国土交通省]

7. 企業の景況感

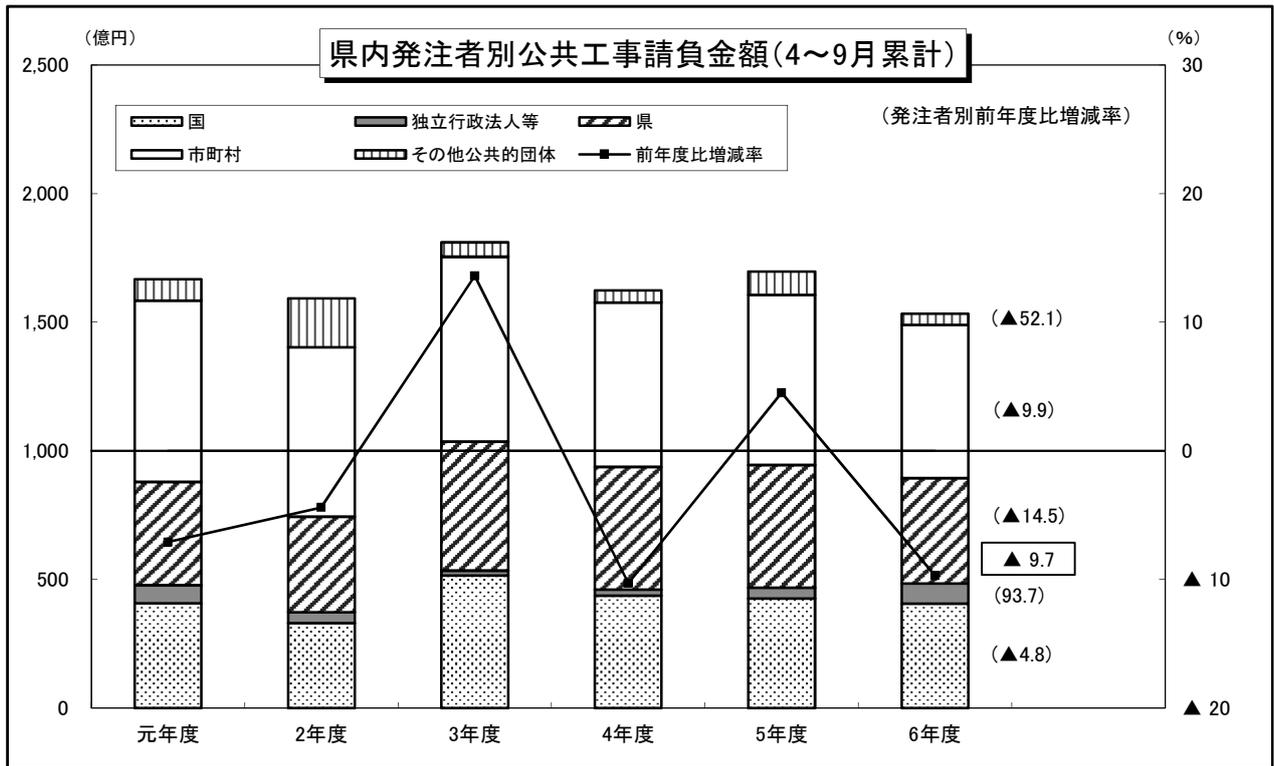


[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

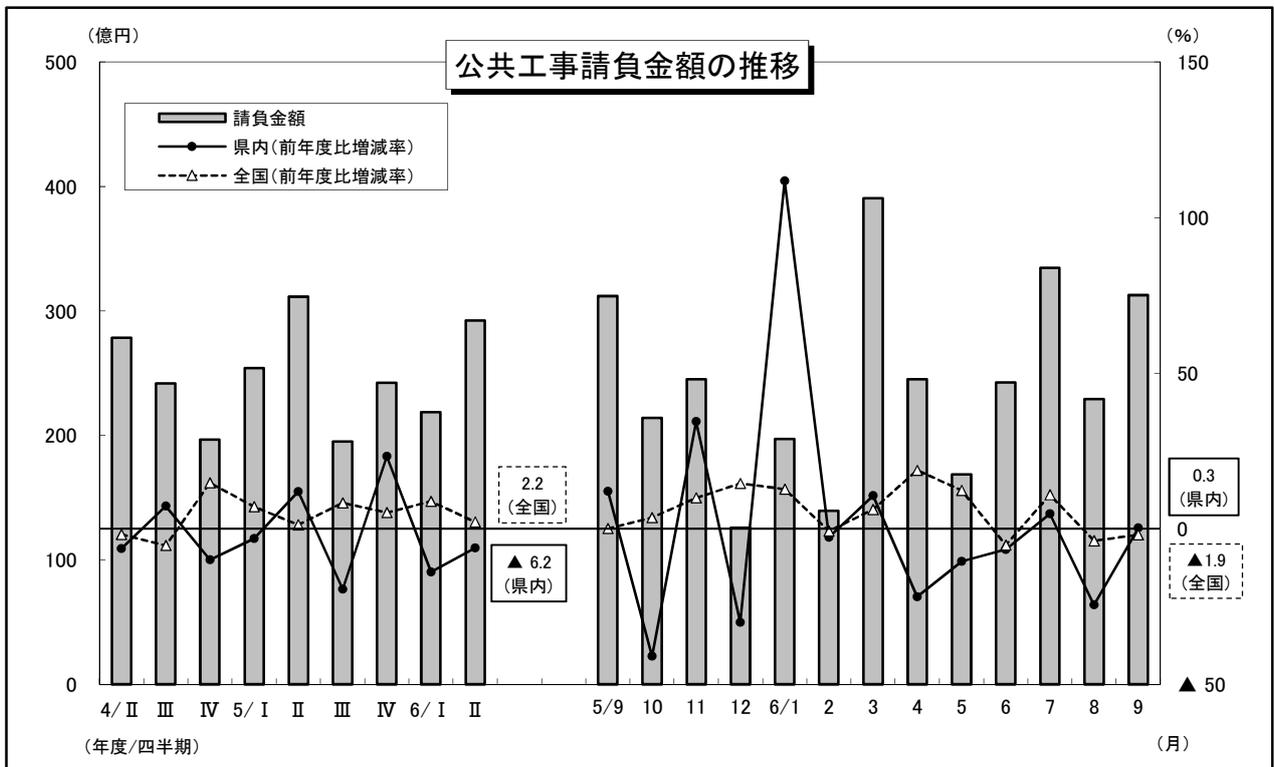


[資料:九州財務局(法人企業景気予測調査)]

8. 公共事業



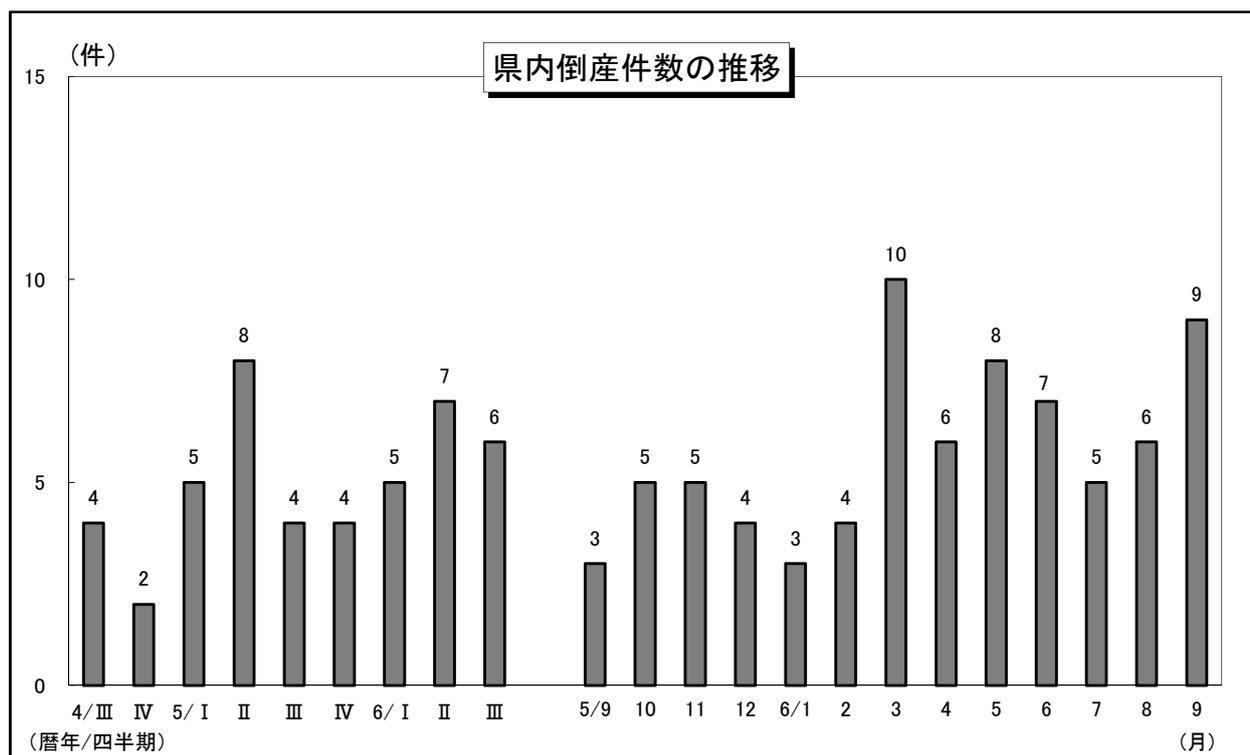
[資料:北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)]



(注)四半期の棒グラフは月平均。

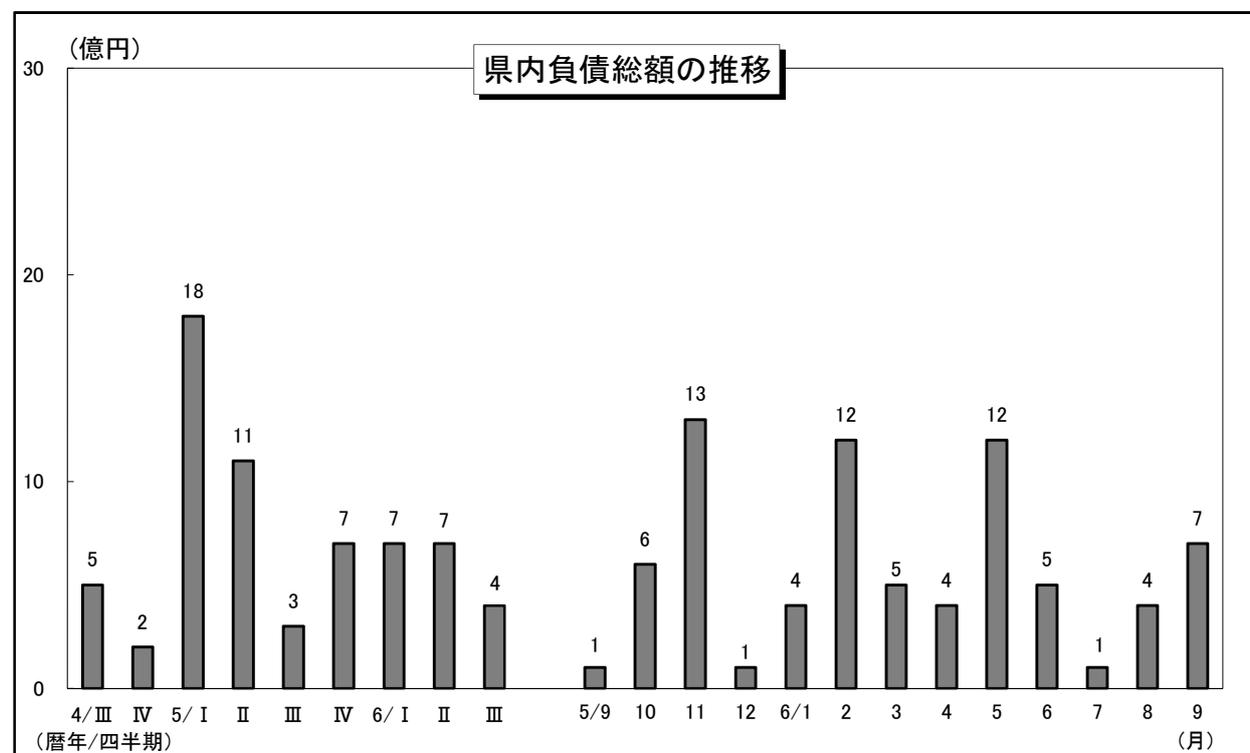
[資料:北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)]

9. 倒産



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料: 東京商工リサーチ]



(注) 四半期の棒グラフは月平均。

[資料: 東京商工リサーチ]